

約1年間が経過した。クボタで27年間、管総研で4年間と、ほぼ全てのキャリアを管路関係の技術者として携わり、経営者へと転身を果たした。本紙では川久保社長にこの1年間を振り返って頂くとともに、今後の事業展開や社内の人材育成、職場環境作りの方向性について伺った。

社長就任から1年

## ■不退転の覚悟で

既設管路の調査業務や推進  
管の開発、地震被害の分析、管  
路分野での官民連携、管網解析

や評価など、幅広い業務経験を積む機会を得ました。技術者としてキャリアを全うしたいと思いは強くあり、さらに一方で、会社経営は未経験でしたし、時々で経営者としてシビアな判断力が求められるわけですから不安は大きかったです。そうは

いつでも社長に指名されたわけですから、技術職は一旦卒業し、不退転の覚悟で経営に全力を尽くそうと心を

管  
総  
研  
川久保知一氏

**市場ニーズ技術力で即応**

## “人財”確保と育成強みに

■ソフトウェア技術で  
貢献

■ソフトウェア技術で  
貢献  
管総研はクボタの関連会社として平成12年に創業した。『水まくるよう田頃からアソーナを高くし社業の発展に貢献したい』と手応えを感じている。

の各計画を作成する際にも活用頂けます」。

したバージョンアップ版という位置付けで、今年4月にリリースする予定です。クボタグループではI+OTとクラウド技術で施設監視を行うKSS-ITSを展開しており、当社のクラウドマッチングシステムはKSS-ITSの一部として運用されています。突

## ■コミュニケーションを促す仕掛けを

■コミュニケーション  
促す仕掛けを  
手伝いする管轄や施設のデーター  
が事故を未然に防ぐ一助にな  
ばと考えています」

も厚くなりました。まさにボーミページのコンテンツを工夫し、社内の雰囲気が伝わる内容に刷新しています。若手社員が順調に増加しており、当社の強みにできるよう頑張りたい。改めて身の引き締まる思いです」と力強く語った。

決めました」と、当時の心境を語る。就任から約1年が経過した現在は「業務、営業、品質管理など各部門がしっかりと機能していくため、安心して舵取りに専念できます。経営は全て自分だけで抱え込むものではなく、チームワークの上に成り立つものだと実感しています。技術職出身の経営者として、市場ニーズの変化に技術力でいち早く対応でき、事業概要は「維持管理の時代を迎えた水道事業ではアセットマネジメントが必須です。当社の台帳管理システムは管路と施設向けにそれぞれラインアップし、浄配水施設から管路まで全体系のデータベース化が可能です。台帳データを整理し、管網解析、点検、維持、修繕、更新

辛い難工事が増加し、設計作業の難度も上がる傾向にあります。一方、事業体は業務経験の浅い職員も含め、限られた人員で設計作業を行う必要がありまます。そこで、より扱いやすいシステムに改良することも、サポート体制の充実に取り組むことで、お客様の技術・技能継承に貢献したい考えです」。

マッピングシステムについて

は「クラウド機能をさらに強化

した機能強化となります」と紹介する。

過去には漏水事故の現場に立ち会った経験から、こうした機能強化に対する思い入れは人一倍に強い。「管路の水圧は凄まじく、怖さで足がすくむ思いでした。こうした状況にあっても事業体職員や工事会社の社員は現場に駆けつけ、対処されていざる姿を目の当たりにし頭が下がる想いででした。当社が整備をおこなうときも、必ず現場に駆けつけ、現地で問題を確認してから修理作業を行なうなど、苦労しながら頑張ってくれています。また、近年は女性技術者の管理職、中堅、若手の層

人財について「当社の資産はソフトウェアであり、システム技術と水道技術の両方の知識が必要です。社員の成長は会社の持続と成長につながり、より良いシステムや技術サポートを続的に提供し続けるための原点です。若手社員は全国水道研究発表会で積極的に発表するなど、苦労しながら頑張ってくれています。また、近年は女性技術者の管理職、中堅、若手の層

ン会議は効率よく短時間で終ることを重視しがちです。立派ののような「ミニユニケーション」を促す仕掛けが必要ですね

総研に入社。調査研究部長を経て、昨年3月22日付で代表取締役社長に就任。昭和40年12月27日生まれの56歳。東京都出身。